

## 埋文さかど年報

1

## 別所遺跡5区

べつしょいせき

## 調査区

坂戸市大字小沼字後谷

## 調査期間

平成25年4月4日～4月11日

## 調査原因

個人住宅建設

## 確認された遺構と年代

土 坑—3基（時期不明）  
溝 —2条（平安時代・時期不明）

1. 別所遺跡5区

別所遺跡は、坂戸市の北東部の台地縁辺に位置します。北側には飯盛川が流れ、広大な低地が広がっています。

狭い面積の発掘調査でしたが、土坑3基と溝2条が発見されました。幅約2mの1号溝からは、平安時代の須恵器坏が出土しました。



発掘調査の風景

2

## 大穴遺跡5区

おおあないせき

## 調査区

坂戸市大字中小坂字大穴

## 調査期間

平成25年4月30日～5月24日

## 調査原因

個人住宅建設

## 確認された遺構と年代

竪穴状遺構—1軒（中世）  
道路遺構—1条（中世）  
井 戸—2基（中世以前）  
土 坑—3基（時期不明）  
集石土坑—2基（縄文時代）  
ピット—6基（時期不明）

2. 大穴遺跡5区

大穴遺跡は、坂戸市の南東部の台地上に位置し、北側には大谷川が流れています。

道路遺構からは、永享五年の文字が刻まれた板碑が出土しました。また、道路遺構の下から、井戸2基も発見されました。



板碑の出土状況

3

### 村中遺跡3区

#### 調査区

坂戸市大字堀込字西裏

#### 調査期間

平成25年6月25日～7月12日

#### 調査原因

個人住宅建設

#### 確認された遺構と年代

井戸—1基（中世以降）  
土坑—27基（中世以降）  
溝—3条（時期不明）  
ピット—10基（時期不明）

村中遺跡は、坂戸市の北西部の台地上に位置し、北側には越辺川によって形成された低地が広がります。

今回の調査区からは、中世以降と考えられる井戸や土坑などが発見され、かわらけや焙烙などが出土しました。



3. 村中遺跡3区



調査区全景

4

### 馬場遺跡4区

#### 調査区

坂戸市大字塚越字馬場

#### 調査期間

平成25年7月16日～8月8日

#### 調査原因

個人住宅建設

#### 確認された遺構と年代

住居跡—2軒（古墳時代前期、平安時代）  
道路遺構—1条（奈良・平安時代）

馬場遺跡は、坂戸市の北東部、谷治川を臨む台地縁辺に位置しています。

今回の調査区の西隣では、過去の発掘調査によって、東山道武蔵路や平安時代の住居跡などが発見されました。

今回の調査では、古墳時代前期と平安時代の住居跡が発見され、土師器や須恵器などが出土しました。



4. 馬場遺跡4区



作業風景

2

5

## 新田前遺跡 10区

### 調査区

坂戸市大字塚越字御門

### 調査期間

平成25年7月16日～8月9日

### 調査原因

個人住宅建設

### 確認された遺構と年代

溝-1条（奈良時代以降）



5. 新田前遺跡10区

新田前遺跡は、坂戸市の北東部の大宮住吉神社の周辺に広がる遺跡です。この遺跡からは、古墳時代から中世までの遺構が数多く発見されています。

今回の調査区では、溝が1条発見され、底面付近から須恵器の壺が出土しました。



溝から出土した須恵器

6

## 西浦遺跡 17区

### 調査区

坂戸市大字堀込字橋場

### 調査期間

平成25年7月8日～8月9日

### 調査原因

宅地造成工事

### 確認された遺構と年代

住居跡-1軒（平安時代）

集石土坑-1基（縄文時代）

井戸-1基（時期不明） 土坑-1基（時期不明）

溝-5条（時期不明） ビット-2基（時期不明）



6. 西浦遺跡17区

西浦遺跡は、坂戸市北西部の台地縁に位置し、東側には葛川が流れています。

この遺跡からは、古墳が多く発見されていますが、今回の調査区では検出されませんでした。

平安時代の住居跡は、北側に煮炊きを行うカマドが設けられ、須恵器杯や蓋、土師器甕などが出土しました。



平安時代の住居跡

7

## 中原遺跡6区

### 調査区

坂戸市大字堀込字番匠ヶ谷戸

### 調査期間

平成25年8月21日～8月23日

### 調査原因

個人住宅建設

### 確認された遺構と年代

土塁・堀（中世）



7. 中原遺跡6区

中原遺跡は、坂戸市の北西部の台地上に位置し、南側には葛川が流れています。

かつて、この周辺には土塁が良好に残っていましたが、近年の宅地開発により、多くが消滅してしまいました。

今回の調査区では、土塁がL字状に屈曲しており、幅約6m、高さ約1m、堀の幅は約4m、深さ約2mを測ります。



土塁（奥）と堀（手前）

8

## 長岡遺跡16区

### 調査区

坂戸市大字長岡字上耕地

### 調査期間

平成25年9月12日

### 調査原因

貯水槽新設

### 確認された遺構と年代

住居跡-1軒（縄文時代）



8. 長岡遺跡16区

長岡遺跡は、坂戸市の北西部に位置し、越辺川を臨む台地突端に立地します。

この遺跡は、縄文時代から奈良・平安時代にかけて、密集するように住居跡などが発見されています。

今回の調査区は、狭い範囲でしたが縄文時代の住居跡が発見され、少量ながら縄文土器片も出土しました。



作業風景



## 調査区

坂戸市大字善能寺字桜木

## 調査期間

平成25年5月13日～10月7日

## 調査原因

宅地造成工事

## 確認された遺構と年代

古墳—7基（古墳時代中期・終末期）

火葬遺構—1基（中世）

井戸—2基（中世）

土坑—5基（時期不明）

溝—2条（中世以降） ピット—16基（時期不明）



9. 善能寺古墳群1区

善能寺古墳群は、坂戸市の北西部、毛呂山町との境に位置する古墳群で、これまでに9基の円墳が確認されています。

今回の調査区では、古墳時代中期（5世紀後半頃）と終末期（7世紀）の古墳が7基密集して発見されたほか、中世の火葬遺構なども検出されました。

7世紀代に築造された10号墳は、方墳の可能性が考えられ、墳丘も高さ約1m残っ

ていました。また、横穴式石室には加工が容易な凝灰質砂岩が使用されています。

円墳の12号墳からは、周溝の中から大量の円筒埴輪をはじめ、土師器坏や壺が出土しました。円筒埴輪は、20個体近く発見され形態や技法の特徴から、5世紀中頃に製作された可能性が考えられます。

この埴輪は、坂戸市内で最古の埴輪となり、重要な発見となりました。



調査区全景



10号墳横穴式石室と埴土



12号墳全景



12号墳埴輪出土状況

10

# 宮ノ前遺跡8区

## 調査区

坂戸市大字片柳字中村

## 調査期間

平成25年10月29日～11月25日

## 調査原因

宅地造成工事

## 確認された遺構と年代

住居跡-1軒(奈良・平安時代)  
井戸-1基(時期不明)  
土坑-3基(時期不明)



10. 宮ノ前遺跡8区

宮ノ前遺跡は、坂戸市北部の台地縁辺に位置し、西側には飯盛川が流れています。これまでの土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、古墳時代から中・近世の遺構が数多く発見されています。

今回の調査区では、一辺約4mの奈良・平安時代の住居跡が発見され、床面から土師器壺がみつれた状態で出土しました。



住居跡から出土した土師器

11

# 花影遺跡24区

## 調査区

坂戸市中富町

## 調査期間

平成25年12月3日～12月11日

## 調査原因

個人住宅建設

## 確認された遺構と年代

溝 -1条(古墳時代前期)



11. 花影遺跡24区

花影遺跡は、坂戸市の中央やや西側、高麗川によって形成された低地を臨む台地縁辺に位置します。これまでの調査では、縄文時代から中・近世までの遺構が数多く発見されています。

今回の調査区では、東西方向に走行する溝が1条発見され、古墳時代前期の土師器壺が出土しました。



調査区全景

## 調査区

坂戸市清水町

## 調査期間

平成25年10月8日～12月12日

## 調査原因

宅地造成工事

## 確認された遺構と年代

古墳-1基(古墳時代終末期)

土坑-2基(時期不明)

溝-2条(中世)



12. 新山古墳群4区

新山古墳群は、坂戸市のほぼ中央の台地縁辺に位置し、西側には飯盛川が流れています。

これまでに12基の古墳が確認されていますが、昭和30～40年代にかけての大規模な宅地造成工事によって、その多くが消滅してしまいました。

今回の調査は、高さ約1.4mの墳丘が残る新山2号墳を中心に行いました。調査

の結果、2号墳の周溝は幅約5m、深さは2m近く掘られている場所もあります。また、周溝の一边が約50mの方墳であることも分かりました。このため、2号墳はこの地域の有力者が葬られた古墳と考えられ、坂戸市周辺の古墳時代を考えるうえで重要な発見となりました。

なお、2号墳の墳丘は破壊せず、現状保存することが決まっています。



調査区全景



墳丘下から出土した緑泥片岩屑



周溝の土層断面



1号溝から出土した板碑

## 調査区

坂戸市大字青木字堀ノ内

## 調査期間

平成25年11月21日～12月25日

## 調査原因

店舗建設

## 確認された遺構と年代

住居跡－7軒（奈良・平安時代）

掘立柱建物跡－4棟（奈良・平安時代）

井戸－1基（奈良・平安時代）

土坑－3基（時期不明） 溝－1条（時期不明）



13. 宮町遺跡9区

宮町遺跡は、坂戸市の北東部の台地上に位置し、西側には古代の官道である東山道武蔵路が通っています。

この地域は、奈良時代になってから開発が進められたのが特徴です。これまでの調査によって、奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡が数多く発見され、古代の拠点的な集落であったと考えられます。

今回の調査でも、奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡、井戸などが密集して発見されました。住居跡からは、土師器や須恵器に加え、土製や石製の紡錘車、鉄製品なども出土しました。

また、掘立柱建物跡は一箇所に集中しているため、複数回の建て替えが行われたと考えられます。



調査区全景



掘立柱建物跡群



住居跡



住居跡から出土した須恵器環



14

# 花影遺跡25区

## 調査区

坂戸市中富町

## 調査期間

平成26年1月22日～1月28日

## 調査原因

個人住宅建設

## 確認された遺構と年代

住居跡-1軒（縄文時代中期か）



14. 花影遺跡25区

今回の調査区は、花影遺跡24区の西側の台地縁辺に位置し、西側は高麗川によって形成された低地が広がります。

狭い範囲の調査区でしたが、縄文時代中期と考えられる住居跡の一部が発見されました。住居跡からは、縄文土器片が少量出土しています。



作業風景

15

# 宮裏遺跡31区

## 調査区

坂戸市浅羽野

## 調査期間

平成26年1月20日～2月24日

## 調査原因

個人住宅建設

## 確認された遺構と年代

住居跡-1軒（奈良・平安時代）

井戸-1基（奈良・平安時代）

土坑-1基（時期不明） 溝-4条（中世以降）



15. 宮裏遺跡31区

宮裏遺跡は、花影遺跡の南西側に位置する遺跡で、土屋神社の境内には直径約50mの大型円墳が残されています。

発見された住居跡は、一辺約5mでカマドからは土師器甕が出土しました。また、井戸からも土師器や須恵器が出土したことから、住居跡とほぼ同時期に使用されていたと考えられます。



作業風景

## 調査区

坂戸市八幡

## 調査期間

平成26年1月14日～4月25日

## 調査原因

サービス付き高齢者向け住宅建設

## 確認された遺構と年代

住居跡-12軒（奈良・平安時代）

掘立柱建物跡-9棟（奈良・平安時代）

井戸-2基（奈良・平安時代）

土坑-18基（時期不明） ヒット7基（時期不明）



16. 山田遺跡16区

山田遺跡は、坂戸市の中央部の台地上、坂戸市役所の北西側に位置する遺跡です。これまでの調査によって、奈良・平安時代の遺構が数多く発見され、拠点的な集落であったことが知られています。

今回の調査でも奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡、井戸などが多く発見されました。

特に、掘立柱建物跡が集中的に発見されたのは今回が初めてで、5間×2間の規模の大きい掘立柱建物跡も含まれています。また、一辺約3mの大型の井戸も発見されました。

住居跡からは、土師器や須恵器に加え、紡錘車や土器に墨で文字を書いた墨書土器も出土しています。



調査区全景



掘立柱建物群



カマド周辺の遺物出土状況



大型の井戸